

## いちき串木野市温室効果ガスの排出傾向（2022年度）

本市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、2009（平成21）年度に「いちき串木野市地球温暖化防止活動実行計画」を策定し、市で実施する事務事業について、環境配慮の徹底や温室効果ガスの排出抑制などを図ってきました。

本計画は、そうした前計画を踏まえ、「低炭素社会」を築くため、市が率先して取り組むことが責務であるとの認識のもとに、本市が達成すべき目標を定めたものです。

計画の期間は、2019（平成31）年度から2030年度までの12年とし、達成目標については2013（平成25）年度の実績を基準に設定します。また、概ね5年で本計画の改訂を行います。

これまでの市全体の温室効果ガスの変動を見ると、2022年度は2013年度と比較して、約-13.0%、2016年度と比較して、約-3.7%削減されています。

表1 温室効果ガスの排出傾向と削減目標

項目	2013年度 (基準)	2016年度	2020年度	2021年度	2022年度	2030年度	主な発生源
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	5,792	5,224	5,055	4,775	5,018	3,236	電気使用、燃料使用、自動車燃料
メタン (CH <sub>4</sub> )	49	46	47	45	46	43	自動車走行距離、一般廃棄物焼却量、下水処理量
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	269	254	257	243	253	252	
合計	6,109	5,524	5,359	5,063	5,317	3,531	
2013年度 (基準円)比	0.0	-9.6	-12.3	-17.1	-13.0	-42.2	
2016年度比			-3.0	-8.3	-3.7		

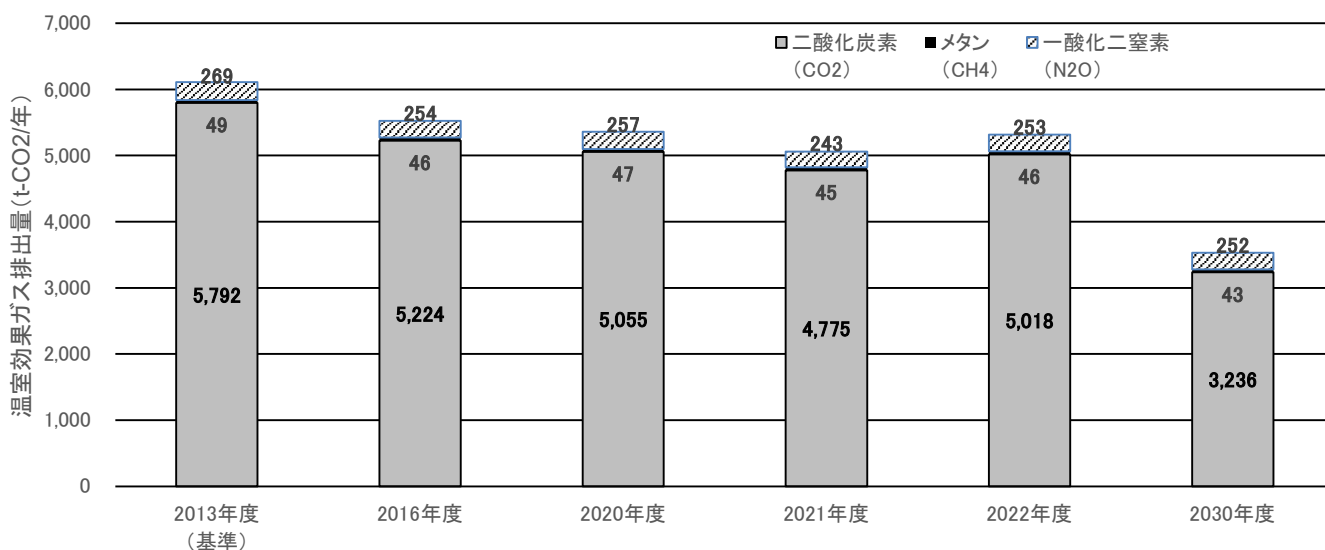


図1 温室効果ガスの傾向と削減目標

## 補足

### (1) 二酸化炭素排出量(CO<sub>2</sub>)

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量は前年度比、約5.1%増加しています。

この要因は、各施設においてガソリンを除く燃料の使用量が増加したためと考えられます。

増加した燃料のうち軽油が前年比で約22.7%と最も増加しました。その理由は、公用車のうち福祉関連のバス及び薩摩英国バス等の稼働が多くなったためです。

また、新型コロナウイルス感染症による規制が緩和したため、各燃料使用量が増加したと考えられます。

### (2) メタン(CH<sub>4</sub>)・一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量

メタン(CH<sub>4</sub>)排出量は前年度比、約2.6%、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量は約4.1%と微増しました。

その要因は、一般廃棄物焼却量が約5.2%、下水処理量が前年度比で約1.3%増加したためです。